

電気ショッカーボートの導入後、現在、未来

工藤 智(北海道立水産孵化場)・武田 功(Bass stop! 北海道)

電気ショッカーボートは、2004年7月に北海道がブラックバス・ブルーギル(以下バス・ギル)を効率的に捕獲するため我が国で初めて導入した。この本体は商品名エレクトロフィッシャーの小型機種 2.5G P P型(アメリカ、スミスルート社製)で、これを組立式FRP救命ボートNKM-1型(日軽産業株式会社)に搭載したものである。当初はエレクトロフィッシングボート・ショッカー船・電撃船等と呼ばれていたが、現在では呼称がようやく統一されつつある。

北海道以外における本機種の使用は、2006年4月に環境省自然環境局皇居外苑管理事務所が北海道と同型船を導入してから始まった。現在、皇居外苑濠では、北海道も技術協力して年4回のバス・ギル駆除を行っており、表面水温6~18の条件下で効率的な駆除が行なえることが判ってきた。

これとほぼ同時に(2007年から)北海道は水産庁委託事業の中で「電気ショッカーボートによる外来魚の駆除技術の開発」を各県水産試験場と連携して実施してきた。これはボートを北海道からJRコンテナで輸送して行ったもので、2007年は福島県の羽鳥湖・猪苗代湖(内湖:鬼沼)、2008年は滋賀県の琵琶湖(内湖:曾根沼)と犬上ダム湖、埼玉県の名栗ダム湖、2009年は新潟県の内ノ倉ダム湖、長野県の諏訪湖で現地調査を行った。さらに、2010年1月には琵琶湖本湖の一部(彦根旧港湾)や曾根沼で実施の予定である。これらの調査の目的は、既存の駆除方法である掻い掘り(水抜き)以外の方法、例えば刺し網・竿釣り・産卵床破壊・人工産卵床等の効果を電気ショッカーボートによる採捕結果を基に評価するため、バス・ギルの生息数推定と駆除効率の検討が行われている。

一方、2009年8月に埼玉県農林総合研究センター水産研究所、2009年11月には宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団がそれぞれ独自型の電気ショッカーボートを購入して外来魚の抑制対策に取り組み始めている。また、昨年夏には東京都武蔵野市(井の頭恩賜公園)で国産電気ショッカーを搭載したボートが初めて使用されたが、機械的トラブルのため駆除効果については残念な結果しか得られなかった。さらに、概に国内で約400台輸入販売された背負い式ショッカーとの区別や駆除使用法に誤った事例も見受けられている。

以上のような状況を背景として、最近是一般市民からも電気ショッカーボートに対する関心が強まっている。これには、電気ショッカーボートの情報公開を先駆けたWeb(琵琶湖を戻す会,2005、NO Bass 福島,2007)を始め、インターネットによる検索の影響が大きい。とりわけ2008年12月、YouTubeの「電気ショッカーボートによるブラックバス捕獲調査」のアクセス解析によれば、2009年11月の長野県諏訪湖や宮城県伊豆沼の新聞・テレビ報道直後に急激な動画の再生回数が記録されており、今後、電気ショッカーボートを使用した駆除を展開するためには、正しい情報の共有化が必要である。

現在、電気ショッカーボートの公共水面での使用は水産資源保護法関連で都道府県知事の特別採捕許可を必要とするが、これが外来魚駆除における普及を大きく妨げている可能性もある。今後、全国バス防除市民ネットワーク等が率先して責任体制を充実させた中で一般市民から信頼を受けることが重要で、場合によっては行政側の法解釈の見直しも必要になると考える。

【参考 Web】

ケー・エンジニアリング株式会社

<http://www.k-engineering.co.jp/index.htm>

外来魚駆除 in 琵琶湖

<http://homepage2.nifty.com/mugituku/index.html>

NO Bass 福島

<http://www6.ocn.ne.jp/~yocehan/>

北海道にブラックバスはいらない

<http://www7.plala.or.jp/PreciousField/bass/>

本報告は水産庁からの委託事業「外来魚抑制管理技術開発事業」の中で行なった。